

NIKE AIR JORDAN HIGH

■ ナイキ エア ジョーダン ハイ胃

資料提供: Kicks



ナイキに限らず、スニーカーの絶対的なマスターピースの筆頭に、AJ1を推して反対するファンは少ないだろう。1980年代中期を象徴するバッシュディテールに、マイケル・ジョーダン（以下MJ）というバスケットボールの神が創出したストーリーをオーバーレイしたスニーカー界のレジェンドは、誕生から30年以上を経た今もなお、世界中のスニーカーヘッズを魅了し、魅力的な復刻モデルを次々に世に送り出している。その傾向は2018年にも引き継がれているが、ここ数年におけるAJ1シリーズのラインナップの変化から、2018年は注目すべきシーズンになりそうだ。これまでのAJ1ラインナップでは、MJが着用したハイカットディテールと、ミッド&ローカットには明確な線引きが存在していた。特に1985年モデルを強く意識し、ヒールにジャンプマンマークが入らない“OG”では、“シャッターバックボード”のようなバリエーションカラーにも、MJ自身のエピソードに紐付けられることがお約束だった。その“お約束”を新たな解釈で再構築したのがOff-White（オフホワイト）のデザイナー、ヴァージル・アブローが手掛けた“THE TEN”にラインナップしたAJ1である。AJ1のアイコンカラー“CHICAGO”を取り入れているが、そのデザインはAJ1を再構築するものであり、オリジナルディテールとは似ても似つかないプロダクトが発売された事実は、“色違い”という枠の中で展開し続けてきたAJ1に可能性を示すものである。また、身近なバリエーションモデルである“RETERO”のヒールから、伝統のジャンプマンマークが消えつつある事実も見逃すことはできない。伝統のディテールから逸脱することは、約束の無いカジュアルシューズ化のリスクを伴う。スニーカー界のレジェンドであるAJ1だけに、そうした安易な展開は誰も望んではいない。今度AJ1はどの方向に向かうのか。2018年のスニーカーヘッズは、AJ1のラインナップに注目しなければならないのだ。

NIKE THE10 : NIKE AIR JORDAN 1 RETRO HIGH OG

■ ナイキ エア ジョーダン

資料提供: sns24z

